

水林下遺跡現地公開資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和3年11月8日(月)～11月12日(金)

調査要項	
遺跡名	水林下遺跡(遺跡番号 461-078)
所在地	山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下
時代・種別	旧石器時代、奈良・平安時代(集落跡)
起因事業	一般国道7号遊佐象潟道路建設事業
調査依頼者	国土交通省酒田河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	令和3年6月15日から11月30日まで
調査面積	2,410m ²
調査担当者	調査研究員専門員 氏家信行(現場責任者) 主任調査研究員 大場正善
検出遺構	土坑 柱穴 溝跡 ピット
出土遺物	石器 磨製石斧 土師器 須恵器 陶磁器



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

水林下遺跡は山形県と秋田県との境に位置する遊佐町の女鹿地区に位置しています。また、遺跡は鳥海山の国定公園内にあたり、東に鳥海山、西には日本海が広がります。また、遺跡は約9万年前に鳥海山から噴出した、大平溶岩により形成した台地の上に立地しています。

昨年度の調査では、調査区を工程に沿って3つに分け、それぞれをA・B・C区とし、A区とB区の調査が昨年度で終了しています。今年度は、C区をさらに西・東・北区に分けて調査を行いました。

西区は昨年度の調査で遺構検出まで終了していました。東・北区は重機を使用し、遺構が確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り遺構を確認しました。その後、西・東区は遺構を掘り下げ、遺構の平面や土層断面、遺物の出土状況等を図面や写真に記録するという順序で調査を行いました。

また、昨年度に縄文時代より古い後期旧石器時代の石器が発見されたB区に隣接する東区では、上層で検出した遺構調査の終了後、あらたに調査区を設定し、旧石器の調査を行いました。なお、北区は竪穴建物跡の可能性のある遺構などが検出されたことから、今年度に継続して調査することとなりました。

2 見つかった遺構と遺物

今回のC区の東・西区の調査で発見された主な遺構は、土坑・溝跡・柱穴ないし杭跡・ピットなどです。

東・西区では柱穴ないし杭跡、ピットが多数見つかりましたが、柱穴として建物を構成するものは確認できませんでした。これらの遺構は、どのような性格のものであったかは明らかではありませんが、杭などを立てた際に残されたものと思われます。また数基の柱穴ないし杭跡の埋土からは、明治時代以降の陶磁器が出土したことから、近現代に建てられた遺構もあることが分かりました。

東区の南側では、東西に長さ約12m、幅約50cm、深さ約30cmの直線的な溝が発見されました。1948年に米軍によって撮影された航空写真で耕作地や農道などが確認されるため、その際に掘られた側溝などの可能性があります。

上層では、奈良・平安時代のころと考えられる土師器や須恵器が多量に発見されました。土師器は坏や甕のほか、被熱した厚手の鉢形の製塩土器も出土しました。調査区では残念ながら明確な奈良・平安時代の遺構が発見されませんでした。近隣に製塩を営む集落跡があった可能性が考えられます。

このほか、縄文土器や石鏃、石匙(ナイフ)、剥片などの縄文時代の遺物もわずかながら発見されました。このほか、近世から近現代の陶磁器等の遺物も出土しました。

東区南側では、昨年度のB区の調査で発見された旧石器の分布の続きが確認されました。昨年度の調査で出土した約150点の旧石器は、台形石器や石刃などからなり、石器とともに出土した炭化物の放射性炭素14年代測定によって、3.5～2.8年前という後期旧石器時代前半期のものであることが判りました。

今年度の調査でも、B区の隣接地で石材を打ち割った際に出る剥片や碎片が約90点出土し、分布範囲が広がることが判りました。



写真1 遺跡遠景(北西から)

さらに、今年度の調査では、白色風化した磨製石斧が出土しました。石斧は刃の部分のみを残した破損品ですが、後期旧石器時代前半期の出土事例として県内初であり、県内最古の磨製石斧となります。

3 まとめ

本調査では、破損した、あるいは再加工し使い込まれた北陸産の透閃石岩製磨製石斧が新たに発見されました。後期旧石器時代前半期(38000～29000年前)の磨製石斧(ないし刃部磨製石斧)は、全国的に発見されていますが、本県では初の事例、かつ県内最古の事例となります。

磨製石斧に用いられた透閃石岩は、顕微鏡観察などの鑑定により、長野県北西部、および富山県境付近に産地が推定されます。さらに、長野県上水内郡信濃町野尻湖遺跡群で発見された同時期の遺跡では、多数の透閃石岩製磨製石斧の製作痕跡が確認されています。

東北地方では、秋田県秋田市地蔵田遺跡、岩手県和賀郡西和賀町大台野遺跡に次いで3番目の発見例となります。この透閃石岩製磨製石斧からは、北陸から中部、そして東北地方日本海側にわたる環日本海地域における広域なヒトやモノの移動が、後期旧石器時代の、それも早い段階からすでにあつたことがうかがわれます。



写真2 C区東 柱穴、ないし杭跡(南から)



写真3 旧石器の出土状況 (上が東)



写真6 水林下遺跡出土磨製石斧 (S=1/1)



写真7 秋田市地蔵田遺跡出土磨製石斧 (S=1/1)



写真4 旧石器出土範囲の調査風景-(北西から)



写真5 旧石器の出土状況 (西から)



写真8 磨製石斧の出土状況 (北から)



図3 透閃石岩製磨製石斧が発見された遺跡 (中村 2015 に加筆)

S = 1/500
図2 水林下遺跡第2次発掘調査区概要図